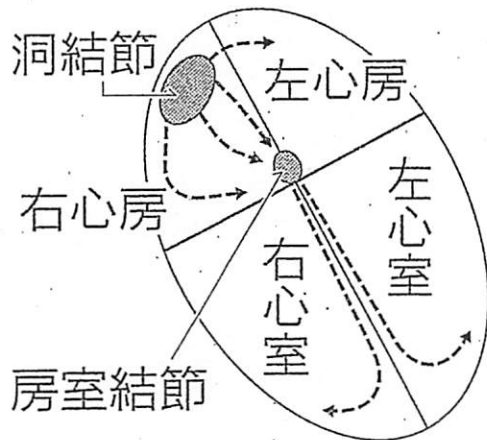


心臓の働きと電気信号

脈が遅くなる不整脈

奥山が前任地勤務中に書いた新聞記事です。平成20年9月24日毎日新聞に掲載されました。



←主な電気信号の流れ
 1分あたりの伸縮回数(心拍数)と呼ばれ、心臓の中を流れる電気信号によって調節されています。この電気信号が心房にある洞結節から出て、心房の中を

心臓は筋肉でできた袋状の臓器で、血液を送り出すポンプとして働いています。安静時には1分間に数回、運動時などには伸び縮みする回数が増えて送り出す。安静時には1分間に数回、運動時などには伸び縮みする回数が増えて送り出す。安静時には1分間に数回、運動時などには伸び縮みする回数が増えて送り出す。

続・高血圧と脳・心臓病 50話 毎週水曜

第26話

電気信号の異常

流れ、房室結節という心房と心室の連結部分を通して、心室全体に伝わって行きます。この電気信号の異常が不整脈と呼ばれるもので、心拍数が減る「徐脈性不整脈」と心拍数が増える「頻脈性不整脈」があります。不整脈には、放置可能なものから、直ちに命にかかわるものまでさまざまな種類があります。

徐脈性不整脈は心室に達する電気信号の数が不足して、必要な量の血液を送り出せなくなる不整脈です。主なものには、①電気信号の発生源である洞結節の働きが悪くなる洞不全②電気経路の途中、特に房室結節で電気信号が途切れる房室ブロックの二つがあります。

心拍数の減少が失神、めまい、息切れなどを引き起こしている場合、症状の改善には体内に埋め込む「ペースメーカー」という機械で電気信号の不足分を補う必要があります。この手術は約1週間の入院で済み、退院後はほとんど制限のない生活ができます。内蔵された電池が消耗するため、6〜10年に1度のペースメーカー本体の交換手術が必要です。(大阪府立急性期・総合医療センター「心臓内科」部長、奥山裕司)